

# 陰と空間

味わいによる空間の質

指導教員 吉松秀樹教授

6AEB3105 大塚 健介

## 1. 問題意識「空間の質」

様々な都市を調査し、路地・公園・商店街などそれぞれの空間に優劣を感じた。その優劣は空間の「質」によって決められているのではないだろうか。

## 2. 調査「味わい」

「味わい」とは、味わうことができることであり、固定的で皆が同じに感じるものには「味わい」はない。人の感じ方がそれぞれ違い、揺れ動いているような不均質なものが「味わい」である(Fig.1)。

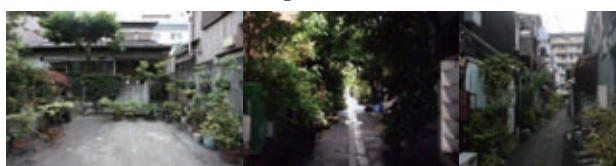


Fig.1 味わいを感じた空間

## 3. 分析「味わいの要素」

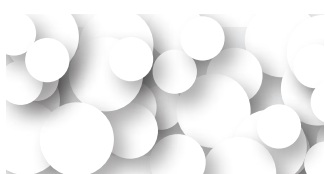
調査によって「味わい」というものが揺れ動き、不均質なものと分かった。その不均質なものが何なのか、何によって「味わい」を感じるのか、その要素を分析しモデル化を試みる。

都市空間にとって揺れ動いているような固定的でないもとして、陰・路地の私物・風化の3つが挙げられる。その中でも陰というのが揺れ動き不均質であることがわかる(Fig.2)。



Fig.2 路地の陰部分を抽出

## 4. 手法「陰を重ねる」



陰を重ね合わせた二次元モデル。小さな面が陰を持つ重なり合っている。

Fig.3 二次元陰モデル

分析から得た陰を用いて陰モデルとする。陰の重なりにより二次元なものが三次元に見え奥行きを持ち、また、元の部分の輪郭があらわになり、味わいが出ていると言える(Fig.3)。

## 5. モデル化「空間へ」

壁を二重に重ね合わせたモデルを作成。壁の重なりで陰を持たせる「壁型」と、壁型を空間に展開した「空間型」は一つの空間をつくり出す中で壁の間に陰を重ね合わせることで、空間全体がぼんやりとした陰に包まれた状態となる(Fig.4)(Fig.5)(Fig.6)。

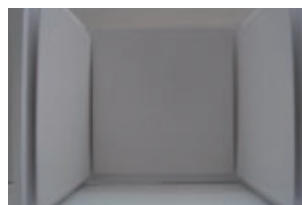


Fig.4 壁型陰モデル



Fig.5 空間型陰モデル



Fig.6 味わいのある空間の提案

## 6. 提案「陰から設計」

陰から設計することによって、空間が不均質になり冷たくも暖かのような表情をもつ味わいのある空間を提案する。

二つのモデルを用いて住宅に応用する。陰から設計することで、一様な空間が陰により多様な表情を持った空間になり、陰と向き合うことでモノや空間の認識に多様さが生まれる(Fig.7)(Fig.8)。

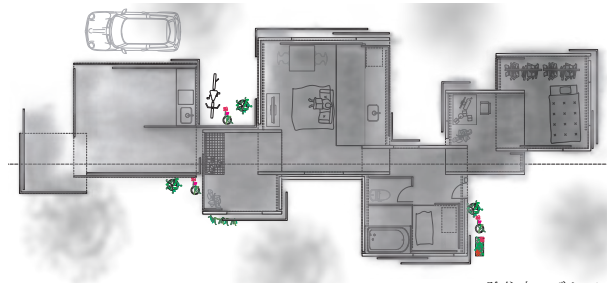


Fig.7 陰住宅モデル plan



Fig.8 鳥瞰写真